

公益財団法人初年度の事業報告

自 平成24年2月1日 至 平成24年9月30日

I. 展覧会

1. 第40回「日本の書展」直轄展

第39回展では、東日本大震災を配慮して、直轄4展とも開催披露レセプションを中止したが、第40回展では復活し、開催した。また、開催披露レセプションの同日、パーティーに先立ち、「日本の書展」40周年および公益財団法人移行を記念する講演会を直轄4展全展で併催した。講演会講師は、当会代表理事・会長、元在アルゼンチン大使、スペイン大使の荒船清彦氏。「書と国際文化交流 日本の視点、世界の視点」と題した講演は4展とも好評を博し、書家・関係者の他に、掲載新聞を見た一般客や学生の姿も見られた。

40回展の入場者数は39回展に比べ、直轄4展合計で約3700名減少した（総入場者数：40回展19,268名 / 39回展22,978名）。

この原因は、経費削減のため、前回まで作成していたチケット型の記念品交換券（現代書壇巨匠の出品作品絵はがき1枚を贈呈）を取り止め、記念品交換券の付いたチラシ1本に絞って出品者等に配布をしたことと推測する。チラシは招待客に郵送しにくいとの声が出品者の中から挙がっていた。次回は入場者数の増数に向けて改善していきたい。

(1) 関西展

会 期 平成24年5月24日（木）～5月27日（日）

会 場 大阪国際会議場（3階イベントホール）

主 催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後 援 文化庁

協 賛 （公社）日本書芸院

講演会 平成24年5月24日（木）11:00～12:00

大阪国際会議場 10階 会議室1003

開催披露レセプション 平成24年5月24日（木）12:30～14:00

リーガロイヤルホテル 3階 光琳の間

関西展の出品数は、巨匠15点、代表71点、委嘱33点、招待373点、秀拔選700点、合計1,192点、会期中の入場者数は3,431名だった（前回39回展の入場者数は4,244名）。

産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

会期初日の5月24日（木）11時から、大阪国際会議場10階会議室1003において講演会を行い、書家・関係者・一般280名の聴講があった。

また、引き続き同日12時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて382名の出席があり、「日本の書展」立ち上げ展覧会のレセプションに相応しい盛大な会となった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社事業局長 竹田徹氏から共催者挨拶があった後、榎倉香邨顧問の書家代表挨拶へと続き、尾崎邑鵬顧問の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(2)中部展

第1会場

会期 平成24年6月6日(水)～6月10日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階 展示室CDEFG)

第2会場

会期 平成24年6月5日(火)～6月10日(日)
会場 名古屋市博物館(3階ギャラリー全8室)

第1会場・第2会場とも

主催 (公財)全国書美術振興会 中日新聞社
後援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
各県市教育委員会 東海テレビ放送
協賛 (公社)中部日本書道会
講演会 平成24年6月6日(水) 16:30～17:30
名古屋東急ホテル 3階 バロックの間

開催披露レセプション 平成24年6月6日(水) 18:00～19:30
名古屋東急ホテル 3階 ヴェルサイユの間

中部展の出品数は、巨匠15点、代表71点、委嘱13点、招待156点、秀拔選616点、合計871点、会期中の入場者数は、愛知県美術館・名古屋市博物館の両会場合わせて4,041名だった(前回39回展の入場者数は4,911名)。

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。第1会場・第2会場の会期が重なる初日の6月6日(水)16時30分から名古屋東急ホテル3階「バロックの間」において講演会を行い、書家・関係者・一般295名の聴講があった。

また、引き続き同日18時から、同ホテル3階「ヴェルサイユの間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて350名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、中日新聞社常務取締役事業担当 高坂毅氏から共催者挨拶があった後、樽本樹郎顧問の書家代表挨拶へと続き、東海テレビ放送株式会社事業局長 加藤昭宏氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分に終了した。

(3)東京展

会期 平成24年6月14日(木)～6月24日(日) 6月19日(火)は休館日
会場 国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)

主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
後援 文化庁

講演会 平成24年6月14日(木) 11:00～12:00
ホテルオークラ東京 本館1階 曙の間

開催披露レセプション 平成24年6月14日(木) 12:30～14:00
ホテルオークラ東京 本館1階 平安の間

東京展の出品数は、巨匠15点、代表71点、委嘱40点、招待565点、秀拔選865点、東京展合計1,470点、他展の委嘱(関西展委嘱33点・中部展委嘱13点・九州展委嘱12点)も加わり、総展示数1,614点で当会としては最大の展示数。

会期中の入場者数は9,731名だった(前回39回展の入場者数は11,617名)。

会期初日の6月14日(木) 11時から、ホテルオークラ東京本館1階「曙の間」において講演会を行い、書家・関係者・一般378名の聴講があった。

また、引き続き同日12時30分から、同ホテル本館1階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて609名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、株式会社共同通信社代表取締役社長 古賀尚文氏から共催者挨拶があった後、文化庁長官 近藤誠一氏の来賓祝辞、新井光風常務理事の書家代表挨拶へと続き、外務大臣政務官・参議院議員の浜田和幸氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(4)九州展

会期 平成24年7月5日(木)～7月10日(火)

会場 福岡アジア美術館(7階企画ギャラリーABC・8階交流ギャラリー)

主催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社

後援 文化庁

講演会 平成24年7月5日(木) 16:30～17:30

ホテルオークラ福岡 3階 チェルシーの間

開催披露レセプション 平成24年7月5日(木) 18:00～19:30

ホテルオークラ福岡 4階 平安の間

九州展の出品数は、巨匠15点、代表71点、委嘱12点、招待132点、秀拔選223点、合計453点、会期中の入場者数は2,065名だった(前回39回展の入場者数は2,206名)。

西日本新聞社の紙面協力を得ている。

福岡アジア美術館も今回で2回目の借用となり、美術館規約や使用感にも慣れつつあるため、九州展の展覧会場として定着していきたい。

会期初日の7月5日(木) 16時30分から、ホテルオークラ福岡3階「チェルシーの間」において講演会を行い、書家・関係者・一般138名の聴講があった。

また、引き続き同日18時から、同ホテル4階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて118名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社執行役員企画事業局長 緒方芳弘氏から共催者挨拶があった後、師村妙石参事の書家代表挨拶へと続き、松清秀仙評議員の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分に終了した。

全展共通の試みとして、入場者数や客層を広げるため、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにして来場記念品として1枚ずつ贈呈しており、今展も行った。

総贈呈枚数は7,407枚(39回展の総贈呈枚数:13,745枚)。

直轄4展総入場者数19,268名に対して約38.4%の贈呈率(39回展の贈呈率:59.8%)。

2. 第40回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の86点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方9カ所を巡回している。現在6番目の鳥取米子展まで終了。

第40回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	24.7.13～7.16	198	1,542
2	栃木 宇都宮市	下野新聞社	福田屋ショッピングモール宇都宮イターパーク店	24.8.29～9.3	310	3,475
3	青森 青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	24.9.6～9.10	285	1,080
4	広島 広島市	中国新聞社	福屋広島駅前店	24.9.27～10.2	726	23,315
5	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店6階葦川会館	24.10.17～10.22	576	4,822
6	鳥取 米子市	山陰中央新報社	米子高島屋	24.10.31～11.4	297	1,210
7	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	25.2.6～2.10	(253)	(3,263)
8	長野 長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	25.3.8～3.11	(238)	(1,469)
9	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	25.4.13～4.18	(290)	(1,380)

※ () 内の数字は前回第39回展の実績

3. 第40回「日本の書展」東京展 公募臨書

会期 平成24年6月14日(木)～6月24日(日) 6月19日(火)は休館日

前期展示 平成24年6月14日(木)～6月18日(月)の5日間

後期展示 平成25年6月20日(水)～6月24日(日)の5日間

会場 国立新美術館(展示室1Dの一部 51～54室の4室)

主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社

後援 文化庁

2012(平成24)年開催の第40回「日本の書展」東京展から、展覧会場となる国立新美術館の4室・約4000㎡を確実に借館するため、公募の部を新設することになった。書の基本である臨書に限る公募とし、「公募臨書」初回となる今展は、予想を超える934点の出品があった。

平成24年1月31日、国立新美術館審査室において、審査委員12名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査となり、結果、入選数は473点となった。内訳は下表参照。

出品整理料1,000円で、入選作品は表具をして国立新美術館に展示した。展示後、入選者には表装作品と共に「入選証」が贈られ好評だった。

第40回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	半切たて	半切よこ	篆刻	
前期展示	157	72	8	237
後期展示	156	72	8	236
入選数合計	313	144	16	473

第40回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢字		仮名		篆刻
	半切たて	半切よこ	半切たて	半切よこ	
	272	12	41	132	
284		173			
入選数合計	473				

II. 書美術功労者の顕彰

日本芸術院賞を受賞された星弘道理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以上